

<p>1. 主催者・共催者名 国立環境研究所・マレーシア工科大学</p>
<p>2. タイトル アジアにおける低炭素の実施について - イスカンダル・マレーシア低炭素施策計画の公表-</p>
<p>3. 目的・概要 このサイドイベントでは、マレーシア、日本、アジアにおける低炭素の実施の実例に焦点を当てる。マレーシアエネルギー・環境技術・水省による環境技術の開発・普及支援や低炭素都市施策の、イスカンダル開発庁による低炭素施策等の発表を交えながらアジアにおける低炭素施策の実施について議論する。</p>
<p>4. アジェンダ</p> <p>開会の辞 日本国環境省 地球環境審議官 白石順一</p> <p>マレーシアおよび日本における低炭素行動の紹介 1) マレーシアにおけるグリーン成長戦略 マレーシアエネルギー・環境技術・水省 事務局長 Y. Bhg. Datuk LooTook Gee, 2) イスカンダル・マレーシアを対象とした低炭素行動計画 イスカンダル開発庁 計画・コンプライアンス部局長 Maimunah Jaffar 3) マレーシアを対象とした低炭素研究成果の報告 マレーシア工科大学 教授 Ho Chin Siong 4) アジアを対象とした低炭素研究協力 国立環境研究所 主任研究員 藤野純一</p> <p>質疑応答</p>
<p>5. 発表・議事の概要</p> <p>冒頭、白石地球環境審議官より、マレーシアと日本の間での研究者および政策決定者の協力によって低炭素に向けた取り組みが進んでいることに対する感謝の言葉が述べられた。</p> <p>マレーシアエネルギー・環境技術・水省のY. Bhg. Datuk LooTook Gee 事務局長よりマレーシアにおけるグリーン成長戦略についてキーノートスピーチを頂いた。ASEAN の中でも省エネ投資ポテンシャルが最も大きいマレーシアにおいて、さらなるグリーン技術開</p>

発・普及に向けた施策の展開や都市を対象にしたプログラムについて詳細な報告がなされた。

続いて、イスカンダル開発庁の Maimunah Jaffar 室長より発表があった。昨年の COP18 では、イスカンダル開発庁長官が 2025 年に向けた低炭素ブループリントを公表したが、今回は 10 の行動計画からなる低炭素実施プランを公表した。たとえば、統合的な交通対策、グリーン経済に向けた指針作り、学校を対象としたエコライフプログラム展開など 10 の計画について紹介がなされた。

そして、マレーシア工科大学の Ho Chin Siong 教授より、イスカンダル・マレーシア開発地域、プトラジャヤ市、マレーシア国等を対象にした低炭素社会シナリオ研究の進展について発表があった。特に、マレーシア国を対象にした 2020 年および 2030 年のシナリオについて解説した。

最後に、全体のチェアを務めた国立環境研究所の藤野主任研究員より、マレーシアとの研究協力の背景や次のステップについて意見が述べられた。

会場からは、日本国環境省の川又国際協力室長より、マレーシアとのさらなる研究および実施の協力についての期待が述べられ、日本としては二国間クレジット（JCM）により、さらなる技術普及および温室効果ガス排出量削減に貢献したいとのコメントがあった。

6. 会場写真

